

1	審議会名	図書館協議会
2	日時	平成 26年 3月 27日 午後 6時 30分から午後 8時 30分まで
3	会場	上田情報ライブラリー
4	出席者	中澤会長、新山副会長、大倉委員、大塚委員、小竹委員、廣川委員、加藤委員、
5	市側出席者	大滝館長、石井館長、石井次長、飯島次長、高橋次長、土屋係長
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	4人 記者 人
8	会議概要作成年月日	26年 4月 10日

協議事項等

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
今回の議題はエコール内での利用者カードの問題について情報交換というかたちでお願いしたい。
慎重に審議していただきたい。
- 3 上田図書館館長挨拶
エコール内での利用者カード有効期限設定についてそれぞれの御立場での意見交換というかたちで
お願いしたい。
- 4 内容説明
(1) 利用者カードの有効期限について
(事務局)
利用者カードの有効期限について実務担当学会議の依頼で館長会議において審議をし、実務担
当者と館長の合同会議を開催した経過がある。
現在は赤ちゃんから利用者カードの登録ができ、有効期限はつけていない。
死亡・異動等で連絡不明の方もはいつているので、利用登録者数が実利用者にそぐわない。
平成 26年 1月からは実施してはどうかという案は、同合同会議で無理と判断し、同 3月から
5年以上使用していない方は除籍して、1年間データは残すという案もあった。
この案についても、館長会議の議論が市民に向けた視点に欠けているのではないかと。外部の視
点に欠けているのではないかと。普通に利用している方にはメリットがあるのかといった意見に
より、実施の仕方、周知の方法等検討していく必要があることから見合わせる形になっている。
今回、図書館協議会の委員の皆さんからのご意見も参考にさせていただき検討してまいりたい。
県内各市の状況も示してありますので、ご意見をいただきたい。
(各委員の意見)
現在、宛先不明の方には督促が出来ないということと、登録者数と実利用者数とが、かけ離れ
た数字になっていることが、なぜいけないのか、こういった不具合があるのか。
(事務局)
上田図書館の例では、およそ 500 通出ている。そのうち 25% ぐらいが宛先不明で戻ってくる。
個人情報という事もあって、調査するのがなかなか難しい。滞納本には予約がかかっている場
合があり、電話連絡もつかないケースには利用者に不便をかけている。
登録者数については、いままで登録した方の累計である。住所の変更をした場合の届出を市民
に呼びかける必要がある。有効期限設定については、館長会議の合意事項であるが、もう一度
サービスの向上の面で実施の時期等の設定については再検討が必要であると考えている。
(各委員の意見)
まじめなユーザーにとってはあまり手間隙がかかるので賛成できない。返さない人にペナルテ

ィーをつけたらどうか。

(事務局)

滞納本がある方については、滞納している本をお返しして頂いてから、お貸しするようにしている。その都度カウンターで説明をし、対応をしている。

情報ライブラリーでは9月に、210人、537冊督促を出して、宛先不明の方が87人、213冊あった。督促が戻ってきた場合は、調査することになっているが、事務的な煩雑さがある。住所設定は合理的ではない。自主的に変更することが望ましい。

ペナルティーについては、返却してから貸出をすることを、カウンターでお伝えしている。

宛先不明の方については、たまたまきている人、学生、転勤の方など思われます。

有効期限を設けると、自動的な住所変更の効率的な方法となる。

(各委員の意見)

カード登録時に住所の変更があった場合の連絡をお願いしたほうが良い。

カード登録時に、学生などの住所変更が予想される人には、チラシを配るなど、すればどうか。

(事務局)

プライバシーを配慮しながら利用していただく社会教育施設なので、ペナルティーをかけるというよりは、住所変更の届出をお願いする方法をPRすることが必要と考えられます。

(各委員の意見)

一般的な常識のある方であれば、借りたものは返すのが当たり前であり、返却しない方があるようならば、有効期限を設け、定期的に利用者に確認をすることは有効な方法であるように思えてきた。またレシートに滞納本がある方は貸し出しができないことを入れるのはどうか。

(各委員の意見)

エコール内全体でペナルティーをかけた方がよいのではないか。

(事務局)

エコール内全体で個人の情報が共有されている。貸出処理時にメッセージが出た方にはお願いしている。

利用者の返さない理由にはいろいろな背景がある。

(各委員の意見)

有効期限設定により、「宛先不明」の本は返却されることが多くなるのか。

(各委員の意見)

子どもが小さい時には登録したまま変更を届けてなかった。今回初めて気づいて、届けなければいけなかったと感じた。実際に転出し使用していない、住所変更をする必要があると感じた。

(各委員の意見)

目的と効果についてもっとPRしてほしい。

(事務局)

有効期限設定により、滞納本の返却にどれほどの効果があるかわからないが、情報は伝えなければならないと考える。目的は実際の利用者数を把握することが目的だったが、図書館を利用する人にとってはこういったサービスに繋がるかさらに検討していく必要があると考える。

(各委員の意見)

督促を出す住所が正確になると督促が少なくなるのか。

(事務局)

正確に出さないと伝わらない。督促数に影響があるかはわからない。

レシートに入れることは有効である。

サービスのこういった面につながるか、練りなおさなければいけない。

「番号制度」について

税・住民票のカード・印鑑証明等違った番号を使って個人を特定し行政のなかで使用しているが、全部を同じICカードを使う動きがある。カードの容量で空いている部分の活用として、図書館のカード等が例示としてあげられている。今すぐにそのようなカードができるのではない、これからプロジェクトチームができるところである。

(2) 各図書館の報告

(上田図書館)

今回は「江戸時代の教科書」と題して市民の方が身近に感じられる題材をテーマにして、上田図書館の貴重なコレクション「花月文庫」を使って、2年に1回の貴重資料紹介展を開催。築45年の老朽化した施設についても考えてまいりたい。

(情報ライブラリー)

地域の文化人シリーズ、2年に1度開催。平成26~27年、6人の方についてテーマを絞って講演会と展示を行う。

「江戸ワールドへようこそ」開館10周年記念、尾崎行也先生にお願いしている。

「地域のビジネス支援」会社の製品・概要パンフレット提供。

(丸子図書館)

開館して、利用者は固定してきている。

上田女子短期大学連携事業

丸子図書館の職員による、本のブッカーかけ講師、

夏休みの夜のおはなし会、夜の図書館講座開催。

(真田図書館)

開館3年となり11月19日で蔵書数58,682冊

真田図書館サポーターの皆さんとの市民協働事業として、「真田塾」・家庭菜園講座・お話し会等を開催、今後もさらに進めていきたい。

真田中学校向けの本の献立紹介

(各委員の意見)

移動図書館の利用者は、移動図書館のホームページや図書館への照会で来ているのか。PRの方法に工夫が必要ではないか。

年間で決まっている行事などは、年に一度のお知らせをするために、図書館便りの作成はどうか。。

(事務局)

検討してまいります